

# 「今私たちにできること」 被災地救援レポート

森村商事は社員有志による救援物資寄贈に続き被災地救援の第2弾として、自転車100台を宮城県亶理町にある町立荒浜中学校(70台)と同亶理中学校(30台)に寄付致しました。

これは現地で継続的に支援活動を行なっている(財)日本国際飢餓対策機構より現地で自転車が不足しているとの情報を受け実施したものです。



逢隈中学校入口 3Fが荒浜中学校の仮校舎



自衛隊の活動拠点にもなっています



自転車を運んできた10tトラック



生徒の皆さんが手伝ってくれました



ハンドルの組み立て中



荒浜中3年生の先生方と生徒たち



日本国際飢餓対策機構の方々にも協力頂きました。



亶理中学校自転車置場横にて



訪問先亶理町逢隈中学校の仙台市との位置関係

荒浜中学は東日本大震災の津波により、一階天井までが浸水する被害を受け、現在は4-5km程内陸の、逢隈中学校の一部を間借りして授業を行っています。同様に周囲の集落も、家屋が殆ど残っていない程の甚大な被害を受けました。その為、全校生徒101人のうち70人が未だ複数の避難所乃至仮設住宅で生活し、そこから通学しています。一番遠い生徒は10km以上もの道程を通わねばならず、家庭の自動車も津波で流され送迎が思うようにならない中、移動手段としての自転車は必須の状況でした。その様な状況下において森村商事としてささやかながら現場のニーズにあった支援を実施する事が出来たと思っております。

# 「今私たちにできること」 被災地救援レポート

また自転車の引渡しの後、教頭先生の御好意により、現在は立入禁止区域となっている被災した元の校舎まで実際に連れて行って頂きました。こちらも被災地の現状として併せてご報告致します。



阿武隈川河口から1km程のところ  
堤防が破壊されています



荒浜中学校裏口 津波は一階天井まで到達したとの事



裏口から振り返っての光景



正面玄関 一階のガラスや扉は全て  
津波で破壊されています。



正門から海岸方面を向いて



中学校横の排水路 瓦礫で埋まっています



海岸線から500m程の地域 瓦礫の撤去がまだ進んでおらず、2ヶ月前の被害状況の凄まじさがそのままになっています



今回最も印象的だったのは、このような過酷な状況の中でも明るさを失わない子供達の姿でした。家を流され、親兄弟を亡くしたり、自身も津波に巻き込まれて奇跡的に助かったという壮絶な経験をした生徒達がとても元気に過ごしている姿を見ていると、被災地から遠いはずの私たちが反対にエネルギーを貰うような気持ちでした。彼らに接する限り、この先色々な壁にあたっても乗り越えて行けると信じずにはられません。最後に、ご協力頂いた荒浜中学校関係者の方々、日本国際飢餓対策機構の方々に厚く御礼を申し上げます。

以上